

表3-2-9 各類型 両親の状況

	合計	両親ともいる	父親だけいる (母親死別)	母親だけいる (父親死別)	父親だけいる (母親死別)	母親だけいる (父親死別)	別(両親ともいない)	わからない
類型計	1,585 100.0	1,360 85.8	34 2.1	15 0.9	78 4.9	83 5.2	8 0.5	7 0.4
「求職型」無業者	67 100.0	56 83.6	1 1.5	1 1.5	3 4.5	6 9.0	0 0.0	0 0.0
「非求職型」無業者	58 100.0	45 77.6	0 0.0	0 0.0	2 3.4	9 15.5	2 3.4	0 0.0
「非希望型」無業者	32 100.0	23 71.9	2 6.3	0 0.0	4 12.5	2 6.3	1 3.1	0 0.0
正社員・正職員	871 100.0	767 88.1	20 2.3	4 0.5	46 5.3	29 3.3	0 0.0	5 0.6
非正規社員	557 100.0	469 84.2	11 2.0	10 1.8	23 4.1	37 6.6	5 0.9	2 0.4

(2) 「非希望型」は父母が仕事や勉強・成績についてうるさく言うと考えている

各類型の父や母についての印象(青少年Q6, 7)を見ると, 5類型ともに父については「父は, 私に対してやさしくあたたかいほうだ」, 母については「母は, 私にいろいろなことを話すほうだ」, 「母は, 私に対してやさしくあたたかいほうだ」とする者が多い。なお「私の仕事や勉強・成績について, うるさく言うほうだ」があてはまるとした割合を見ると, 父母ともに「非求職型」で他の類型よりも低く, 「非希望型」で他の類型よりも高くなっていた。

## 2 各類型の父母の最終学歴

次に, 青少年の類型別に親の考え方の特徴を見るため, 青少年調査と親調査をマッチングし, 両親ともにいる各類型の青少年の親<sup>5</sup>のみをとりあげて親調査の回答に若干の検討を加えた。両親ともにいる青少年の親のみを対象としたのは, ひとり親や両親不在の影響を排除するためである。なお, サンプル数の制約から, 親調査の回答者が父であるか母であるかによる違いはここでは見ていない。

各類型の父母の最終学歴(親Q20)を見ると, 表3-2-10のようになっていた。

<sup>5</sup> 「求職型」無業者の親46名, 「非求職型」無業者の親39名, 「非希望型」無業者の親19名, 正社員・正職員の親627名, 非正規社員の親384名

表3-2-10 各類型の親 父母の最終学歴

	合計	父の最終学歴							母の最終学歴						
		校中 ・国 民学 校 (旧 制 高 等 小 学)	女 学 校 (旧 制 中 学 校 ・ 高 等 師 範 学 校)	高 校 (旧 制 中 学 校 ・ 高 等 師 範 学 校)	短 大 ・ 高 専 ・ 専 門 学 校 (旧 制 高 等 師 範 学 校)	大 学 ・ 大 学 院 (旧 制 大 学)	そ の 他	不 明	校中 ・国 民学 校 (旧 制 高 等 小 学)	女 学 校 (旧 制 中 学 校 ・ 高 等 師 範 学 校)	高 校 (旧 制 中 学 校 ・ 高 等 師 範 学 校)	短 大 ・ 高 専 ・ 専 門 学 校 (旧 制 高 等 師 範 学 校)	大 学 ・ 大 学 院 (旧 制 大 学)	そ の 他	不 明
類型計	1,115	151	604	64	271	5	20	102	707	225	57	5	19		
	100.0	13.5	54.2	5.7	24.3	0.4	1.8	9.1	63.4	20.2	5.1	0.4	1.7		
両親ともいる「求職型」 無業者の親	46	10	22	3	10	0	1	3	33	6	2	0	2		
	100.0	21.7	47.8	6.5	21.7	0.0	2.2	6.5	71.7	13.0	4.3	0.0	4.3		
両親ともいる「非求職 型」無業者の親	39	7	17	2	13	0	0	6	19	9	5	0	0		
	100.0	17.9	43.6	5.1	33.3	0.0	0.0	15.4	48.7	23.1	12.8	0.0	0.0		
両親ともいる「非希望 型」無業者の親	19	1	9	1	8	0	0	1	12	4	2	0	0		
	100.0	5.3	47.4	5.3	42.1	0.0	0.0	5.3	63.2	21.1	10.5	0.0	0.0		
両親ともいる正社員・ 正職員の親	627	72	357	37	146	5	10	50	403	135	29	3	7		
	100.0	11.5	56.9	5.9	23.3	0.8	1.6	8.0	64.3	21.5	4.6	0.5	1.1		
両親ともいる非正規社 員の親	384	61	199	21	94	0	9	42	240	71	19	2	10		
	100.0	15.9	51.8	5.5	24.5	0.0	2.3	10.9	62.5	18.5	4.9	0.5	2.6		

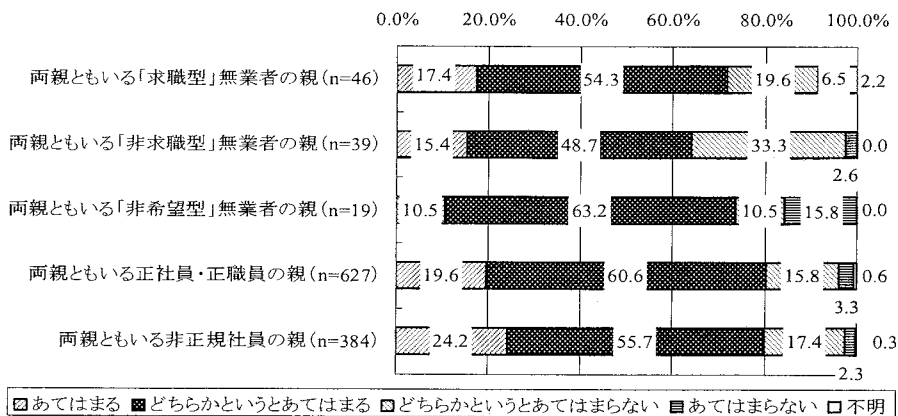
3 小学生の頃の育て方

ここでは、各類型の親が、青少年が小学生の頃どのような育て方をしていたか（親Q3）を、「子どもの希望はできるだけ聞いた」、「あまりかまっていなかった」、「できるだけ外で遊ばせた」のそれぞれについてどれだけあてはまるかの面から検討した。

(1) 無業者の親は子どもの希望をどちらかというと聞かなかった

各類型の親が「子どもの希望はできるだけ聞いた」かどうかについては、いずれの類型でも「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」の合計が6割を超えた。なお、無業者の親は有職者の親よりも「どちらかというにあてはまらない」、「あてはまらない」と回答する割合が高く、「非求職型」の親では3割を超えた（図3-2-8）。

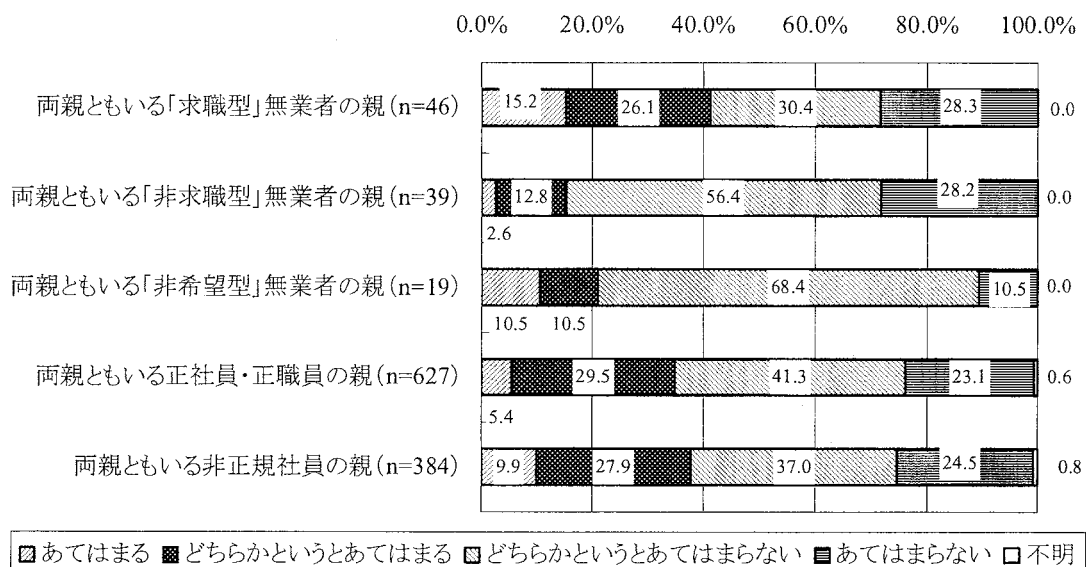
図3-2-8 各類型の親 子供の希望をできるだけ聞いたかどうか



(2) 「非求職型」「非希望型」の親は子どもにかまってやらなかった割合が低い

各類型の親が「あまりかまってやらなかった」かどうかについては、いずれの類型でも「どちらかというとあてはまらない」と「あてはまらない」の合計が「あてはまる」と「どちらかというとあてはまる」の合計を上まわっていた。特に、「非求職型」及び「非希望型」の親は、「あてはまる」と「どちらかというとあてはまる」の合計が 15.4%、21.0%と他の類型と比べて低くなっていた（図3-2-9）。

図3-2-9 各類型の親 あまりかまってやらなかったかどうか



(3) 「非求職型」「非希望型」の親はどちらかという子どもを外で遊ばせなかった

各類型の親が「できるだけ外で遊ばせた」かどうかについては、いずれの類型でも「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」の合計が、「どちらかというにあてはまらない」と「あてはまらない」の合計を上まわっていた。なお、「非求職型」及び「非希望型」の親は、「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」の合計が 66.7%、68.5%と他の類型と比べて低くなっていた（図3-2-10）。